手記

サイパン島失陥ニ際シ

南洋興発株式會社

社員 小村末松

内閣調査局

前書　記録

コノ記録ハ昭和十九年六月十一日米國空軍マリアナ群島空襲ニ續イテ七月十三日ノ同艦隊ノ艦砲射撃ニ始リ、昭和二十年三月　日吾々民間抑留者ノ横濱上陸ヲ以テ終ル。

人類興亡ノ歴史ニ於テ、其ノ敗戦ノ陰ニ於テハ勿論ノコト、輝シキ戦勝ノ陰ニモ多クノ筆舌ニ盡シ得ヌ悲惨事ヲ見ル、其ノ人類ノ一世紀又ハ二世紀ノ間ニ於テ経験シ得ザリシ様ナコトモアリ得ルシ、特ニ個人ノ歴史ニ於テハ創家以来其ノ血族中ノ何人モ嘗テ発見シ得ザリシ恐シキ体験デモアリ得ル、吾々マリアナ群島ノ民間人ハ其ノ体験シタ誠ニ恐シキ体験デアッタノデアル。

此ノ期間中ニ吾々ガ体験シタ悲惨ナル数々ハ国家ノ歴史ニ於テハ勿論ノコト、個人ノ歴史モ決シテ記録サルベキデナイ、何トナレバ其ノ記録ヲ讀ムモノニ対シ決シテ良キ影響ヲ及ボサズ、寧ロ

内閣調査局

其ヲ讀ム者ヲシテ目ヲ覆ハシメ、同情ト嘆キノ余リ、其ノ様ナ状態ニ陥ラシメタ当時ノ政府ー制度ヲ怨嗟スル結果トナルコトハ必定デアルカラデアル。又記録ヲ書ク人自身ニトツテモ非常ナル決心ト勇氣トヲ要求セラルノデアル。

従而コノ記録ハ何處迄モ公表スベカラザル、一個人ノ記録ニスギズ、此ノ戦争中ニ悲惨ナル最後ヲ遂ゲタ妻ノ霊前ニ捧ゲル為ノ及ビ妻ト私ノ血族ニ私等夫婦ノ行動ヲ知ラセル為、又私ガ多クノ同胞ト更ニ妻ノ死ニモ拘ハラズ、オメ〳〵ト生命ヲナガラヘ收容者ノ身トナツテ内地ニ歸還シタカ、ソノ弁解ノ辞デアル。

○ 二月二十三日ノ空襲

「マリアナ」群島ガ敵米英ノ本格的空襲ヲ受ケタノハ實ニ昭和十九年二月二十三日デアル、夫レ以前ニ於テモ幾度カ偵察機ラシキモノハ来タ模様デアリ、又在住民モ再三甲管制ノ警報ニ緊張シタノデアルガ、実際爆弾ヲ投下サレ地上施設ヲ破壊サレタノハコノ第一回ノ空襲デアル。

「マリアナ」群島ガ本格的ニ実際的ニ対空防備ヲナシ始メタノモ、コノ空襲以後ノコトデアル。「サイパン」島ニ於テハ、「オレアイ」「バナデル」ハ二ヶ所ニ滑走路ヲ民間ノ勤労奉仕或ハ協力ニヨリ完成シ、其ノ後ノ予定地モ選定サレタ。又「テニアン」「ロタ」「グアム」ニモ夫々数個所ニ完成或ハ予定サレタ。敵上陸ニ備ヘルタメ陸軍ハ續々増派サレ陣地モ構築サレツヽアツタ。夫ニハ海上ニテ敵ノ潜水艦ニ襲ハレ、人命物資ニ多大ナル犠牲ヲ払ハレタノデアツタ。

二月二十三日ノ空襲ハ全ク敵ニ虚ヲ突カレタ形デ、マリアナ群島ハ敵空軍ニ蹂躙サレタノデアル、吾方ニハ飛行機モナカツタノデアル。常日頃吾等ガ上空ヲ飛ビマハシテ居タ戦闘機ハ特ニ吾等ヲ如何ニ力強ク感ゼシメタカ知レナイガ例ノゼロ戦ハ奥地ノ戦ニ参加スベク

内閣調査局
国立公文書館 National Archives of Japan

「サイパン」、「テニアン」ヲ後ニシタソノ虚ヲ突カレタノデアル。物ノカー、持テル米国ハ同時作戦ヲ為シ、「トラック」、「ラバウル」ヲ襲ヒツヽ、吾ガマリアナヲ襲ッタノデアル。地上砲火アリトハ云ヘ全ク敵空軍ノナスガマヽデアル。吾等在住民ハ切歯扼腕ボー然トシテ眺ムルノミデアル。然シコノ空襲ニ於テ吾方ノ損害ハ南洋興発ノ「テニアン」製糖工場ガ相当手荒ク爆破サレタニ止マリ、軍事施設並ニ人命ノ損害ハ僅少デアッタ、コレハ空襲後多大ノ犠牲者ヲ省ミズ、全島挙ゲテ陣地構築並ニ対空設備ノ完成ニ邁進シタ。然シ今ニシテ思ヘバ此等ノ努力ハ全テ遅スギタノデアル、陸軍ノ駐屯ニシテモ、今半年早カリセバ当「マリアナ」ガ斯ク迄無惨ニ叩カレハシナカッタロウ、「ギルバート」諸島ヲ奪還サレ、「マーシャル」ノ「ケゼリン」、「ルオット」ガ占領サレテカラ始メテ「マリアナ」ノ本格的設備開始ハ遅ギハシナカッタカト云フ

ヨリモ先ズ攻ムルニ安ク守ルニ難キ太平洋ノ小サナ島々ニ対シ吾軍ハアマリニ戦果ヲ擴大シ過ギ守ル事ヲ軽ク見過ギタノデハナイカ夫レヨリモ寧ロ小笠原―「マリアナ」―「パラオ」線、「パラオ」―「トラック」―「ラバウル」線ヲ完全ニシ、敵ニ一歩モコノ線ニ踏ミ込マサル様策ヲ講ズベキデハナカッタカ然シ之等ハ全テ結果ヨリ見タ、吾々抑留サレタ在住民ノ愚痴デアリ、素人戦争観ヨリ来ル処ノ結論ニスギナイ。

◇

コノ空爆デ感ジタ事ハ敵ハ機械力ニ於テ、量ニ於テ我ニ立勝ッテ居ルバカリデナク、其ノ質ニ於テ、技術ニ於テ相当優秀ナリト認メシメラレタコトデアル。コノ日敵ノ戦法ハ「サイパン」ニ於テハ機銃掃射ガ主デ、爆弾投下ハアマリナカッタガ、前者ハ主ニ「グラマン」機、後者ハ「ノースアメリカン」ヲ以テセラレタ、特ニ「グラマン」ノ掃射ハ敵乍ラ

内閣調査局
国立公文書館 National Archives of Japan

壮烈ヲ極メタ。モウ一ツ教ヘラレタコトハ掩蓋ノナイ壕ハ駄目ダ、特ニ私等民間人ニハ迚モ不安心デオラレナイ、假令木ノ葉デモイ、カラ上ニカブサツテイナイト命ガ縮コル思ヒデアル、「グラマン」機ニ急降下サレ、ダダツ／＼ト打出サレルト思ハズ首ヲ縮メ地面ニウツ伏ス、女子供ハ尚更デアル。

○六月十一日以前

昭和十九年二月二十三日ノ第一回空襲後、同年六月十一日ノ第二回空襲迄ニ於テハ別ニ記憶サルベキモノナク、四月十八日及ビ其後一回「コンソリデーテッド」数機編隊ニテ偵察ニ来リ数発ノ爆弾ヲ投ジテ逃亡シタノミデアル、然シ後デ米軍ニ収容サレテ見セラレタノデアルガ、当「マリアナ」群島ノ極メテ詳細ナ地図ヲ敵ハ完成シテ居ル、「チャランカ」ノ社宅ノ水タンク迄出テ居ル、コレハ勿論コノ偵察機ノ撮ツタ写真ニ據ルモノデアロウ。コノ間、軍官民一致シテ対空設備ヲナシタ。コレ等ハ六月十一、十二、十三日大空襲、大艦爆ノ前ニハ決シテ威力アルモノデハナカッタガ、然シ假令破レタトハ云ヘ此ノ間ノ準備ナクバアル程敵ヲ悩マスコトガ出来ナカッタロウシ、又家庭防空壕ガナカッタラ、モット／＼民間ノ死亡ガ多カッタニ違ヒナイ。

△

南洋興発会社ハ此ノ間此等軍事施設、民間施設ノ急速ナル完成ニ対スル凡ユル手段ヲ講ジテ協力シタ、特ニ軍ノ施設ニ対シテハ会社ノ事業ヲ殆ド中止ノ状態トナシテ之ニ應ジタノデアル。

海軍ニ於テハ従来ノ辻村部隊司令部ノ上ニ南東方面艦隊司令部ガ設置サレ「マリアナ」群島ヲ統轄スルコトヽナリ、陸軍ニ於テモ新ニ師團司令部（マリアナ）、ソノ上ニ軍司令部（マリアナ、グアム）ガ設置サレテ之ヲ統轄シタ。而シテ此等司令部ト民間トノ連

内閣調査局

絡折衝機関トシテ新ニ従来ノ軍需部、建築部ヲ抱括スル海軍第五建設部（五建）ナルモノガ設置サレ、此外ニ総務課ト会計課ガ設ケラレタノデアル。

私モ興発ト五建トノ連絡員トシテ空襲前迄、暫ク五建ニ通ッタ、之ガ為、興発ハ多年経営シテ来タ製糖業ヲ来年度ヨリハ中止セネバナラナカッタ、駐屯軍ノ食糧自給自足対策確立ノタメデアルダケノミナラズ凡ユル会社ノ施設、設備ハ軍ノ必要ニ應ジテハ何時ナリトモ提供或ハ貸與セネバナラナカッタ、其ノ主ナルモノハ軍需品輸送並ニ基地造成ノタメノ汽車「トラック」、「カレター」ノ貸與並ニ宿舎ノ提供デアル、コレガ為ニ會社トシテモ、従業員個人トシテモ一時非常ナル混乱ニ落入ッタ、一方ニ食糧対策ヲ急速ニ行ハネバナラズ、又本年度ノ砂糖モ作ラネバナラナイ、夫ニハ最モ必要ナ輸送機関ハ自由ニナラナイ、個人的ニハ宿舎移轉ノ問題ガアル。コウシタ最中ニ敵ハ来タノダ、余リニ早カッタ、モウ半年遅カッタナラノ感ガ誠ニ強イ。

△

此ノ間ニ於テ個人的混乱ニ就テハモウ一ツノ大キナ混乱ヲ語ラネバナラナイ。ソレハ二月二十三日ノ空襲後起ッタ問題デアルガ、家族ノ内地帰還ノ問題デアル、夫ハ食糧自給対策ニ沿ハナイ畢竟徒食スルモノハ内地ニ疎開シタ方ガイヽト云フ官ヨリノ希望デアッタ。強制デハナカッタケレドモ「グァム」ニ於テハ強制的ニ行ハレ、疎開セザルモノハ食糧ノ配給ヲ中止サレル事トナッタ。又「テニアン」ニ於テモ殆ンド強制的デアッタ、其レニ対シ一番本問題ニ対シ議論湧キ、帰還ノ遅レタノハ「サイパン」デアル、耕作者ノ子弟家族ヲ帰シテハ食糧対策ハ不可能デアル、又指導者階級ガ早手廻シニ家族ヲ帰シテハ悪例ヲ示シ、一般従業員ニ悪影響ヲ及ボス、コレガ吾々ノ持論デアッタ。

ジタモノデアル。
北口少尉ハ特ニ立派ナ人物デ此ノ人カラ私ハ「クーパン」カラ副理事ヲ
打ツタ切ツテ持ツテ帰ツタト云フ彫物ノシテアル立派ナ箱ヲ記念ニ
貰ツタノデアルガ、今ハドウナツテ居ル事ヤラ北口サンニモ誠ニ申訳ナイ
ト思ツテ居ル、皆サンハ空襲前ニ病氣保養ノタメ内地ニ帰ツタ。
○ 六月十一、十二、十三日ノ空襲
六月十一日 十二時十五分 第一配備（従来ノ甲管制 乙管制ナル呼ビ
様ハ廃止セラレテ第一配備、第二配備トナリ、名実共ニ軍ニ協力スル
事トナツタ）ソシテ十三時十分空襲警報ガ鳴リ響イタノデアル、私ハ
社宅デ妻ト中食ヲ攝リ、食後ノ一休ミヲシテ居タノデアルガ、又偵察
機ノ飛来位ニ考ヘテ妻ト共ニカネテ用意ノ「トランク」ヲ持ツテ庭ノ
防空壕ニ入ツタノデアル、然シコノ防空壕ハ友人デアル土地係ノ新田氏
ガ指揮シテ作ツタモノデ、家庭防空壕トシテハ完全ナモノデアル、所ガ空

内閣調査局

ソレデ竟ニ妻ヲ帰スニ至ラナカツタノデアル、勿論当時「アメリカ丸」
始メ頻々トシテ潜水艦ニ沈没セシメラレタ潜水艦ニ対スル恐怖モアル、何モ
早マツテ女房ヲ殺スニ及バヌデハナイカト云フノデアル。
今ニシテ思ヘバ妻ヲ帰ス良イ機会ハ前々アツタノデアル―コレモ愚
痴ダ―私ハ「サイパン」支社総務課ノ農隊関係ヲ擔当シテ居タ関係
上特ニ食糧対策、野菜、薪、獣肉、味噌、醤油等ノ関係ニ於テ
駐屯軍ト密接ナ交渉ヲ持タネバナラナカツタ。前述ノ五建ノ出来
ル以前ニ於テハ軍需部トハ縁深クテ一回程度ハ「チヤランカ」築港
間ヲ往復シタ、ソシテソレガ私ノ会社ノ仕事中ノ大部分ヲ占メテ
居タノデアル、軍需部ノ宇佐川主任ハ慶應ノ私ノ後輩デアル、
個人的ニハ落下傘部隊デ彼ノ有名ナ「クーパン」「パリックパパン」等
デ勇名ヲ馳セタ唐島部隊ニ知友ガ多カツタ、慶應ノ後輩デアル
松下軍医長、北口少尉、川崎、宮内両上曹等大イニ呑ミ且談

内閣調査局

国立公文書館 National Archives of Japan

襲ハ偵察位ノ生易シイモノデナク、戦爆連合ノ大編隊デアチカラモ
コチラカラモ「ドカン〳〵」ト音ガスル、ソシテ相当大キナ爆弾ラシイ
地響ガスル、「アスリート」ラシイ、妻ハソノ毎ニ生色ヲナクスル、防空壕ノ
穴カラノゾクト時々、敵機ノ銀翼ノ編隊ガ見エル、ソレニシテモ何故カ
友軍機ガ見エナイ、ドウシタ事カ、又モ虚ヲ突カレタノデハナイーカ、
此ノ不安ノ中ニ三時間、ヤット十六時解除、穴カラ出テ、スグ夕食
ノ用意ヲサセ乍ラ情報聞キニ行ク、矢ッ張リ虚ヲ突カレタ、友軍
機ナシ。アッタ十数機ハ今朝早ク輸送船ノ護衛ト「パラオ」方面ノ
戦斗援助ニ出向イタトカ、ソシテ敵ハ大機動部隊デ、アハヨクバ上陸
占領ヲ企図セルモノノ如クデアル、鳴呼又シテモ敵ニシテヤラレタ。此
ノ日敵ハ吾ガ方ノ軍事施設ノミヲ爆撃シ、「アスリート」築港方面
ニ相当被害アル如ク、十七時未ダ「アスリート」築港方面ニ重油タンクニ
引火ガモウ〳〵黒煙ガ揚ツテ居ル、明朝早々又敵機来襲ガ

内閣調査局

予想サレ、夕飯ヲスマシ床ニ就ク

△ 六月十二日

四時空襲警報、此ノ日自分ハ在郷軍人トシテノ職合ガアルノデ握飯
ヲ持チ直ニ「グランド」ニ集合シ妻ヲ「ヒナシス」横穴防空壕ニヤル。「グラ
ンド」ニハ山崎部隊長以下十数人アリ鬼丸苗圃畑壕ニ入ル、武
藤、秋山、但野、空襲熾烈ヲ極メ民間施設モ方々ヨリ火ノ手
ガ揚ル、「ガラパン」方面燦々タリ、「チャランカ」ニ於テハ社宅焼カレ事務
所壊滅、工場方面特ニアルコール工場ラシキモノ焼ク、午後チャラ
ンカノ爆撃ヲ避ケルタメ池ノ裏手ニ廻リ、民家ノバナナノ根本ニ
身ヲ伏ス、此ニテ藤原重役、阿武課長、越峯田課長、後ニ上田
課長、仲西氏等ト一緒ニナル、此ノ日重役未ダ楽観論ニテ敵ノ
上陸ハナシト云フ、四時半頃「チャランカ」ニ帰ル、妻モ横穴ヨリ帰リ
来ル、夜、武藤、秋山、但野等「トランプ」ノ下ニテ今日ノ事、明日ノ

内閣調査局

準備ヲ誤リテ、林ニロクヨリ持参ノ南ノ譽ヲ呑ム、窪田虎
彦夫人ガ夫君ニアン出張ニテ、サビシキニ付宿メテクレト来ク快ク
引受ケ、明朝早ク起キヒナシスヲ越エント約シ就寝ス

△、六月十三日

起床三時半、外ハ既ニホノ明ルイ、ア、遅過ギタト思ッタ、モウ止ム
ヲ得ナイ、取敢ズ朝食ノ仕度ヲサセ、前ノ室ノ若イ連中ヲ起シタ、
大急ギデ飯ヲカキ込ミ、妻ト窪田夫人ヲ連レ、前ノ若イ連中ノ
居ル室ノ裏庭迄来ルト、突然ニ空襲警報デアル、止ムヲ得ズ
暫ク其ノ庭ノ防空壕ニ入リ、コレデハトテモヒナシスハ越セナイカ
ラ兎モ角苗圃ノ家庭防空壕ニ入レテ貰ホウト云フ事ニナリ、
飛出ス、途端ニ、タタッ〳〵ト機銃掃射ヲ喰フ、アワテ、何レ
モバナナノ根本ニ打ッ伏ス、敵機ガ低空デ来タタメ爆音ガ全然
聞エナカッタノデアル、生命カラガラ苗圃ノ壕ニ走レバ、壕ハドレモ

コレモ一杯ダ、コレハ昨日ノ空襲デ神社下ノ警防團本部ガ焼カレタ
為コチ等ニ全部移轉シタノト、チャランカ駐屯ノ譽ノ部隊ノ一部ガ
入ッタ為デアル、女子供ハ全部「ヒナシス」横穴ニ行ッタト見エ全
然見当ラナイ、何ハ兎モアレ幾ツカノ防空壕ノ内、空間ヲ見出シ
テ女二人ヲ無理ニ入レテ貰ヒ、私二人ハ入ロノ方ニ頑張ッタ、此ノ日ノ
爆撃、艦砲射撃ハ識ニ猛烈ヲ極メタモノデ、抵抗ナキマリアナ群島下
軍事施設ト云ハズ民間施設ト云ハズ敵ノ思フガマヽ、目茶苦茶ニ
打擲レタノデアル、然シ吾ガ方ニ飛行機コソナケレ、過去何箇月カノ
陸軍部隊ノ対空防禦陣地ノ應戦モ甚ダ見ルベキモノアリ、高射砲、
高射機関銃ノ彈幕誠ニ物凄キモノデアッタ、吾等ガ「サイパン」中ヲ
逃ゲ廻ッテ居ル間悩マサレ、多クノ同胞ヲ殺シ、ソシテ妻ノ死因ヲナシタ
敵ノ艦砲射撃ハ実ニ此ノ日十時頃ヨリ開始サレタノデアル、オ宮ノ
大太鼓ヲ打ツ様ナドドドドドンドンド響ク音其ノ度ニ地下迄ユラ

内閣調査局

ユラト ユラグ、始メ私ハ此レハ近クノ野砲陣地カラ打出ス時ノ衝撃ニ違イナイト思ッタト云フノハ、私ニハ如何シテモ発射音ノミ聞エテ弾着音ガ聞エナカッタカラデアル、所ガソレハ山ニ反響シテ弾着音モ発射音トマギレ聞エタモノラシイ、附近ニ打チ込マレル度ニグラ／＼トユレテ砂ガバラ／＼落チル、壕ノ人々ハ其ノ度ニ打チ伏ス。頭ガキン／＼クラ／＼スル、如何ニ虚ヲ突カレタトハ云ヘ、空襲ガ始ッテカラ三日目ダ一体友軍機ハドウシテ居ルノカ、昼飯時ハトウニ過ギテモ壕ノ中ノ人ハ誰モ飯ヲ食ベ出ス人ハナイ、水ヲ呑ム人サヘマレダ、其レ程誰モ心ニ余裕ヲ持タナイ、口ニバイヲ含ンデ居ル者モアル、コレハ至近弾ガ落下シタ場合ニハ口ヲ開ケ目ト耳ヲ両手デ押ヘ打ッ伏ス可シト云フ信條ヲ固ク守ッテ居ル人デアル、其ノ中ニ警防團本部ノ若イ連中ノ聲デ飯ガ炊キ出シタ順次ニ取リニ来イト云フ声ガ聞エル、私等ハ握飯ヲ持参シタノデアルガ、後ノ用意ノ為ニト貰ッテ喰ベ、飯ト塩ダケ

デアルガ甚ダ旨イ、鳴リ焼エテ居ル アスリート山工場地帯、ガラパン築港、サイパン一円濠々タルモノデナイカ、社宅モ何處カ焼エテ居ル、總テガ身体一ツトナッタ、セメテ身体丈守ラウ、正午過ギノ射撃モ熾烈ダ、誰カ二三人近クノ壕カラ飛出シテ大聲デワメキ乍ラカケテ行ク音ガスル ヒヨイト首ヲ出スト スグ前ノ道路傍ノ壕ニ至近弾ガ直撃弾ヲ蒙ッタト見エテ壕ノサシ渡シノ横木ガ皆穴ニ落込ンデ天井ニ向ッテ居ル、何處カラモ此處カラモ ドスン タタットト云フ音、地球上ガ、ゴウ／＼トシテ居ル、時々砂煙ガモウ／＼ト穴ニ入ッテ来ル、何處カラカ斜森所長ト田村サンノ聲ガ聞エル、今日ハ警部隊ノ歩哨ガ穴ニ入ッテシマッテ外ニハ全然見エナイ様ダ、ヤガテ四時ダヤット壕カラ飛出ス。工場モ社宅街モ一面ノ火炎ダ、私ノ社宅ノ近所カラモ火ノ手ガ見エル、兎モ角妻ヤ窪田夫人ヲ連レテ苗圃事務所ニ走ル、又一発喰フ、事務所附近ニハ艦砲ノ大穴ガスゴイ 口ヲ開ケテ

イル直経十米 深サ五米モアルカ、アッチニモ コッチニモアル、
呑ミ友達デアル吉田社医モ療養所ノ壕デ直撃弾ヲ蒙リ死亡ノ
報ヲ受ク、暗澹タリ。 最初ノ犠牲ダ 合掌！ コノ様子デハ夜モ又
艦砲ヲ受ケルカモ知レヌ 兎モ角 此處デハ何トモナラヌカラ 女ハ「ヒナシス」ノ横穴ニ入
ルニ限ルト 連レテ行ク、途中デ 重役、阿武課長、越年田課長ニ逢フ
今晩ハ東方面ニ逃ゲヌト危険ダト云フガ横穴ニ入ルコトダケドウシテモ聞
カヌ 妻ヲトドナリ付ケ案内シテ行ク、上田課長、大沢一行ニ逢フ、今晩
逃ゲル 一緒ニ行カヌカト云フ、兎モ角小高イ所ニ登リ、敵艦隊ノ様子ヲ
見ルト、一日ハ遠ノクカト見エタ敵ガ又ヒシヒシト押シテ来テ居ル、アッカ
ラパン沖カラ「テニアン」沖ニカケテ一面ノ大艦隊ダ、今晩ハ又艦砲射
撃ヲ受ケル 見下ス下「チャランカ」ハ火ノ海ダ、防空壕ニ入ル心算デ
全ク身体一ツデ食糧モ持チ合セズ、重要書類モ持ッテ来ナカッタ、コレデ
ハ引返シテ持出シテ来ル余裕ガナイ、武藤君始メ一行共諮リスグ

「ヒナシス」ヲ越ヘ「パーパコ」方面避難ノコトヲ決定スル、一行ノ人数ハ
ハッキリシナイが 兎モ角 先頭ト最後ニ男ヲ置キ、女子供ヲ中ニ
挟ンデ出発スル、十八時頃カ、上田夫妻、小村夫妻、窪田夫人、二階堂
武藤、秋山、但野、大沢一家、浅沼一家、土屋一家、小宮山一家、
一行ハ女子供が多イ、ソレデモ 足ノ達者ナ事 驚ク程ダ、特ニ窪田
夫人ナンカ脚氣デ昨日迄病院通モヤットダッタト云フガ良ク
頑張ッテ歩ク、途中二度バカリ休ンデ 二十四時頃ヤット「パパーコ」ノ
水源地ニ到着、冷イ美味シイ水ヲゴクリゴクリト呑ム、兵隊デ一
杯ダ、未ダ地方民ハ見エナイ、上田、大沢両氏が此處ノ駐在部隊
デアル＊村上隊ニ吾々ノ這入ル満俺室ノ借受ヲ交渉スル、ソノ中
田村一家、山本氏、田原一家、鈴木一家「ドンニー」行ノ途中、水ヲ
呑ムタメニ立寄ル、皆鷹メラレ吾々ト一緒ニナル、ソノ内 上田氏
村上隊長ノ心良イ承諾ヲ得テ 態々兵隊ノ這入ッテ居ル壕ヲ

ヤケテ貰ヘ、人間ガ多過ギルノデ二ツノ穴ニ分レル、小サイ方ノ穴
ニハ田村一家 小宮山一家ガ這入リ、他五十五名ハ大キイ穴ニ這入リ
兎ニ角一夜ヲ明ス事ニナッタノデアル

避難行（六月十四日、七月二十九日）

六月十四、五日（パーパコ）

斯クシテ吾々ノ逃避洞窟生活ハ始ッタ、洞窟ハ満俺鑛ナルタメ
何モ彼モ真黒ダ、下ニ甘蔗ノ葉ヲ敷ク、何時モ五十五名ノ
大家族デ然モ女子供ガ大部分ヲ占メルト来テ居ルノデ、食糧ヤ
水モ吾々少ナイ人數ノ男ガ確保セネバナラナイ、食糧ハ幸ヒ村上
隊ノ厚意デ米、罐詰等ヲ分ケテ貰ヒ、又其ノ他ノ者ハ「チャッ
チャビ」ノ二農場 酒保 分店カラ持ッテ来ル、水ハ「パーパコ」ノ水源地
ガアル、水ト食糧ハ何トカナッタ、毎日三時半 乃至四時起床 一同
ヲ便所ニ行カシメ、後ハ十六時頃迄洞窟外ニ出ル事一切禁止ダ、

其ノ退屈ナ事甚ダシイ、四時半頃ニナルト ソロソロ 手足ヲ伸
シ、水ヲ取リニ行ク者、飯ヲ焚キニ行ク者、「チャチャビ」ニ食糧獲得ニ
行ク者、夫々割当ニ従ッテ出掛ケテ行ク、之ガ又一日中身体モ
充分ニ伸シ切レナイデ居ル丈ニ嬉シイモノデアル、此處ハ飛行機ノ
通路ニナッテ居ルガ、爆撃或ハ艦砲射撃ノ目標ニナッテ居ナイ、
コレハ洞ノアル山全体ガ裸山ニナッテ居ルタメ却ッテ逆効果ヲ及ボ
シテ居ルノカモ知レナイ、ソレデモ外レ弾ガ時々附近ニドスント来ル、
「アヘエニヤ」「オビーシャン」「チャランカ」方面一体ヨリ敵上陸ノ報アリ、
後デ聞ケバ十四日ニ「アヘエニヤ」ヨリ敵一部上陸シ、コレガ友軍ニ
撃退サレテ十五日ニ「チャランカ」一帯ヨリ大部隊ガ上陸シタラシイ。

△ 六月十六日（パーパコ）

此ノ日ハ吾々一行カラ 私ノ最モ親シキ先輩ト友人ヲ奪ハレ
タ日デアル、先ニ述ベタ様ニ吾々ノ洞窟ハ爆撃圏外ニアッタノデ

内閣調査局

男ノ連中ハ晝ハ日中デモ一寸偵察ノ名ノ下ニ畑ノ中ヲ馳抜ケ、断崖ノ下ノ田村サンノ窟、或ハ水源地ニ降リテ行ク者ガアッタ、私モ此ノ日九時頃退屈ニ耐ヘ兼ネ、秋山、大沢、但野、土屋ヲ連レ水源地ニ降リテ行キ、直グ側ノ耕作者ノ家ニ一休ミシテ身体ヲ拭イタリ、パンツヲ洗ッタリシテ居タ、此處デ田村サンニ、暫振リデ会ッタノデアル、田村サンハ子供ノシャツ、オムツヲ洗ヒニ来タノデアッタ、ソシテ如何カネト聞イタラ、如何モ神経痛ガ出タラシイ、腰ガ痛ンデ困ルト顔色モ悪カッタシ元氣ガ甚タナイ、態ヽ洗濯シ終ルト、田村サンハ「ヂャー」ト云ッテ直グ上ノ窟ニ帰ッテ行ッタ、コレガ見納メデアッタノデアル、私等モ全部ヤル事ヲヤッタノデ、耕作者ノ家ニ屯ロシテ居ルト、外ニ居ル大沢君ガ爆弾ダ逃ゲロト叫ンダ、コチラハ家ノヒサシノ下ニ居タノデ爆弾ノ方向ガ判ラズ思ハズ直グ勝手ノ縁ノ下ニ打伏ス、ドスンメリ〱バート

自分等ノ居ル家ニ命中ダ、ヤラレタト思タガ幸ヒ身体ニ異常ハナイラシイ、起キ上ッテ見ルト、但野、土屋ガアッチコッチニカスリ傷ヲ受ケテ血ガ吹キ出シテ居ル、然シ大シタ事ハナイ、取敢エズ大急ギデ附近ノ設営隊ノ壕ニ入レテ貰ッタ、大沢君ノ話ニ依ルト吾々ノ姿ヲ見付ケテカ附近ニ遊ンデ居タ豚ヤ鶏ヲ見附ケテカ、一旦通過シタ敵偵察機ガ又引返シテ落シテ行ッタンダト云フ、吾々モ直グ帰ロウト思ッタ途タン又爆音ガ聞エル、身ヲ縮メテ居ルトドスンバラ〱至近弾ダー後ノ断崖ノ方ヲ見ルト、木モ草モ皆飛バサレテ、一面赤黒クナッテ居ル、鳴呼田村サンノ壕ノ前ダ、何時来タノカ酒精工場ノ田子サンガアワテ、其ノ附近ヲ走ッテ居ルノガ見エル、オーイト聲ヲ掛ケタガ聞エナイノカ振リ向キモシナイ、爆音ガナクナッタノデ急イデ上ッテ行ッテ見ルト、無惨三四人ノ死骸ガ壕ノ入口ニ横ハッテ居ル、其ノ一人ハ田村サンラシイ、満俺鑛

内閣調査局

ノ爆風デ顔ガ真黒ニナッテ居ルノデ誰ヤラ判別ガ附カナイ、オーイ〱ト聲ヲ掛ケタガ、一向誰モ返事ヲシナイ、コチラモ怪我人ガアルノデ兎モ角一應吾々ノ窟ニ引キ返シ、上田サンニ顛末ヲ報告シ、一方武藤君ガ改メテ調査ニ行ク、其ノ報告ニ依ルト窟ノ入口ニ直撃彈ヲ受ケ、死者ハ田村、二階堂及ヒ小宮山君ノ父、田村サンノ長男ノ四人デ田村サンノ奥サンハ首ニ破片ヲ受ケ相当重態デアルト云フ、其ノ中小宮山君ガ此ノ處置ニ就キ意見ヲ問ヒニ来ル、取敢ズ窟ノ附近ニ埋葬ノ事ニシ、田村サンノ奥サンニ就テハ倉庫ノ山崎君ー田子サント一緒ニ直グ下ノ洞窟ニ来テ居タノデアルー田子サントモ相談ノ上早急手当方法ヲ講ズル事ニ決シタ、刻ヲ待チ上田サント私ト「チヤッチヤ」ノ奥實君ニ野戦病院ノ所在ヲ尋ネナガラ紹介ヲ頼ミニ行ク、其ノ際但野、土屋両君ノ創ニ入ッタ破片ヲ取ッテモラフ可ク一緒ニ連レテ行ク、幸ヒ野戦病院本部ハ直グ裏ノ神社ニアリ、丁度来合セタ田子サントモ打合セシテ今晩中ニ病院ニ入レル様手筈ヲ極メ、一旦引返シ又直グ私ハ武藤君ヲ連レ、奥サンハ武藤君ニ背負ッテ貰ヒ、小サイ子供ハ女中ガ背負ヒ、長女ヲ私ガ連レ荷物ヲ持ッテ病院ニ行ク、幸ヒ病院デモ快ヨク引受ケラレ應急處置ヲ終ッテ、神社ノ壕ニ田村遺族一同入レテ貰ヒ、後ノ事一切ヲ奥実君ニ依頼シテ、武藤君ト引返ス、ソレニシテモ二階堂君ハドウシタト来ツノカ、「チヤランカ」カラ「パーパコ」ニ来ル途中足ヲネンザシタノデ、吾々ノ定ッタ仕事モサセズニ外ニハ出サナイ様ニシ、専ラ足ヲイタワラセテ居タモノヲ、退屈カラ出掛ケタノカ、吾々ノ窟ニ不安心ヲ感ジ、ヨリ安全感ノアル田村サンノ窟ニ行ッタモノカ、恐ラク後者デハナカッタラウカ、安全感カラ云ヘバ、田村サンノ窟ノ方ガ断崖ノ途中ニアリ、入口ニ落サレナイ限リ絶対ダ、聞ケバ田村サンノ洗濯物ヲ入口ノ木ニ掛ケテ

内閣調査局

居タタメ発見サレタノダト云フ、然シ入口ニ直撃ヲ蒙ッタ事ガ
運命ダト諦メタ私ノ良キ先輩良キ友ハ続々失ワレテ行ク、
選ビモ選ンデ一嗚呼・

六月十七日―二十三日（パーパコ）

此ノ一週間ハ吾々避難民ニ取リ大イニ期待ニ満サレタ期間デアック
聯合艦隊ガ何時「サイパン」ニ来テ吾々ヲ救助シテクレルカ、事実此ノ
期間ニ於テハ聯合艦隊来ルノ報続々入リ吾々ヲ喜バセ緊張サ
セタ、敵ハ大艦隊ヲ以テ「マリアナ」群島ヲ包囲シツヽアルガ、聯合艦
隊ハ其ノ外郭ヲ敵ノ一船モ逃サジト包囲シ壮烈ナル戦闘ヲ行ヒ
ツヽアルモノヽ如クデアル、
事実吾々ハ遥カ海上ニ於テ艦砲ノ打合ヒヲ聞キ、空中戦ヲ見
タノデアル、水平線上ニ盛ンナ猛烈ナ高射艦砲ガ上ル、敵機ガ
味方機ガパーット燃エテスーット海上ニ没シテ行ク、何時敵ノ包囲
ヲ叩キ壊シテクレルカ、然シ陸上戦ハ餘リハナバナシク行カヌラシイ、
晝間ハ敵ノ艦砲ト飛行機ノ掃射ニ依リ手モ足モ出ナイラシク、
僅ニ夜間ニ於テ日本ノ得意トスル夜襲ニ依リ晝間退ゾイタ陣
地ヲ奪還シツヽアルノデアルガ、ソレモ時日ノ経ルニ従ッテ敵モコレニ
対應スル戦術ヲ以テシ、照明弾ヲ花火ノ如ク打チ上ゲル、自分等ハ
今度始メテ照明弾ナルモノヽ偉力ヲ見タノデアルガ、大キイモノニナルト
島ノ半分程度ガ晝ノ如ク明ルクナル、吾々ノ避難行中ドレ丈コレニ
悩マサレタカ判ラナイ、
「チャランカ」方面ヨリ上陸シタ敵ハ「アスリート」ヲ奪ヒ「チャチャ」方面
ニ廻リツヽアルトノ知ラセヲ受ケタ、吾々ノ御世話ニナッテ居ル
村上隊ハ最前線ニ出テ全滅セリトノ報ヲ得タ、吾々ハ暗澹
トナル、然シ吾々ハ此ノ期間中食糧、水ニ就テハ何等ノ不安
ガナカッタ、キメンポウ、他温カイ味噌汁ニモアリ付イタ、

乾麺麭

内閣調査局

ソレカラ二十日ニハチヤツケヤノ酒保モ目茶苦茶ニ艦砲ヲ叩カレタガ、ソレ迄ハ色ンナ食糧ヲ取リニ行ツタモノデ、普通ニハ賣ツテ居ナイ、グリンピース、松茸、練乳、罐詰モアツタ、

（都合）

○△ 六月二十四日二十五日（タラホホ）

二十四日ノ夕剣村工隊ノ留守隊ノ方ガ見エ敵ノ上陸部隊ガ「チヤヂヤ」ニ廻リ当方面ニ進ンデ来ル模様ダカラ今ノ内ニ何處カニ移轉シタ方ガヨクハナイカト云フ、早速準備ヲ整ヘ食糧モ各自ニ分散シテ「タラホホ」方面ニ向フ、折ヨク田辺牧場ノ谷間ニハ水モアルシ、又未ダ避難民モアマリ見エテ居ナイ、谷川ノスグ傍ニ、タコノ木ノ葉ノ屋根ヲ造リココニ腰ヲ落チツケタ。

① 信ズベキ友ノ遺骸ヲ残シツツ敵ニ追ハレテ落チ行ク吾悲シ。

② 暫ラクノ、カクラ谿川ニ流シツツ、吾等ガ行衛ヲ遠ク眺メヌ

③ 谿川ニボクシノ花ヒラヒラト舞テ面白シ、故郷ノ花見ル心地シテ

④ 十日目ニ初、美味シイト呼ブ飯ス 橙持チル妻ヲ見ル哉

⑤ 遊山ニモ斯クモヨキ場所アリト初メテ知ルタラホホノ奥

內閣調査局

二十四日、二十五日ハコノ景色ヨキ牧場ノ谷間ニ過ゴシタガ吾々同様追ハレテカ、避難民ハ相当多クナッテ来タ模様デ又艦砲ハ未ダナイガ偵察機ガ右往、左往シテ時々機銃ヲバラマイテ行ク

○△六月二十六日（カラベラ水大海岸）

ドウモコノ極楽境モ敵ニ発見サレタラシイ機銃掃射ヲシキリトヤッテ行ク。尤モ敵ハ水ノアル谷間、谷間ヲ順次ニネラッテ来ル、ダカラ、コウシタ所ヲ選ンデ、隠レテ居ル以上、多少ノ危険ハ止ムヲ得ナイ、ソコデ先ヅ男ノ連中ニ集ッテ貰ヒ、逃ゲ行ク先ヲ協議スル、結局カラベラノチ人壕ト云フコトニナリ、ココガ入ル余地ガナカッタラ附近ノ溜池ニ行コウト云フコトニナル、ソコデ夕刻ヲ待チ一

私ハ大分、田辺牧場ニハ未練ヲ感ジタノデアルガ一出発シ

カラベラチ人壕ニ至ル、此処ニハ重役、所長、高野氏石黒氏、越山千田氏、鈴木氏、神山氏等其ノ他兵頭氏ノ引率スル「チャランカ」警防團モミンナ顔ヲ揃ヘテ居ル、其処デ上田サント私トデ重役ニ我々ノ割込ミヲ依頼シタガ、何分ニモチ人壕ノ名以上、十五、六百人モ這入ッテ居ル。デ、全然割込ム場所ガナイ、止ムヲ得ズココマデ来テ動ケナクナッタ溜田夫人田原一家計六人ヲ入レテ貰ヒ、我々ハ又引返シテ暗渠ノ谷合ニ入リ込ムコトニシタ。

ソレデ此ノ日ハ夜モ更ケテ居タシ、ミンナ疲レテ居タノデ谷間ニオリタ処デ耕作者ノ家ニ一夜ヲ明カシ明日又附近ノ好イ場所ヲ探スコトニシタイノデアルノ

○六月二十七日ー三十日

内閣調査局
内閣調査局
国立公文書館 National Archives of Japan

此ノ谷合一帯ハ谷川ヲ挾ンデ一尤モ当時乾燥期ナノデ水ハナカツター断崖ガ両方ヨリセマツテ居ル所谷合ニハ樹木ガ鬱蒼トシテ居ルノデ、先ヅ海岸真近カラ射タナイ限リ空カラモ海カラモ大丈夫ダト見極メヲ附ケ、他ニ良イ行ク場所モナイシ、ココニ本腰ヲ落着ケルコトニシタ。幸ヒ水ハ暗渠ヲ越エレバスグアルノデアル、ココデモ二、三日ハ無事デアツタ。
敵ノ駆逐艦二隻或ハ三隻ズツ海岸四、五百米ノ処ニ近附イテ来ルガ射タナイ。射ツテモ舟艇目標ハ此処ニナイラシイ。
夕方ニナルト水ヲ掬ミニ行ク者、食糧確保ニ行クモノ、近クノ千人壕ニ重役達ト連絡ニ行クモノ或ハ甘藷ヲ取リニ行ツタモノ、三、三、五五出掛ケテ行ク、我々ガ甘蔗ノ

美味サヲ知ツタノハ此処デアル。ウイスキーモ他ノ食糧モ未ダ何トカナツテ居ル。
重役連ハ一般ニ前途悲観論ダ、我々ハ楽観論ダ、例ノ聯合艦隊包囲論ヲ主張シテモ千人壕ニハ情報ガ全然入ラヌラシク信ジナイ、コノ谷間デ会ツタ支廳ノ福永氏ノ説ニ依ルト数次ノマリアナ沖航空戦デ味方ハ素晴シイ戦果ヲアゲテ居ルラシイ。二十七、二十八日ハ無事。二十九日ニナルト敵ハ盛ンニ[illegible]艦砲ヲ打ツテ来ル、チャウンリノ外山理髪屋ノ弟ハコノタメ殪レ、妹ノ和子サンハ傷ツイタ。附近ニ逃ゲテ来テ居タ船舶工兵隊ノ一人ガ牛ヲ殺シ火ヲ焚ケナイノデ刺身デ喰ツタ非常ニ美味イ、女連中ハ始メハ嫌ガツタガ、後ニハ食ヒツト食ヒタイ等ト云フ、コレガ三十日ノコトデアル。

内閣調査局
国立公文書館 National Archives of Japan

七月一日ニナルト正午頃カラ物凄イ艦砲ト飛行機ノ爆弾ダノ機銃掃射ダノ生キタ心地ガナイ。ソレニココハ洞モ壊レナイシ、掃射ヤ破片ハサケラレナイ、妻ハ此処デ此ノ日腰ニ破片ヲ受ケテ相当ノ出血デアル。猛烈ナ艦砲射撃ノ中ヲ私ハ取急ギ止血ノ処置ヲシ静ニナルノヲ待ツ、時計ハ十五時頃ダ聴テ十四時スギニナルト上田サン始メミンナ駆ケ付ケテ来ル其処デミンナ協議ノ上又明日モ今日同様射撃ヲ受ケル惧レガアルカラト云フノデ、コノ谷間解散ノコトニ決定シ、私夫妻、山本、田村夫人、田原ノ鈴木一家ハ十人壕ニ入レテ貰フコトニナツタノデアル。

妻ハ山崎サンニ背負ツテ貰ツテヤツト十人壕ニ行ツテ見ルト驚ク程満員ダ、警防団デモ重役連モ我々ノ入ルコトヲ承知シナカツタガ怪我シテ居ルノト婦女子老人ト云フ理由デヤツト入レテ貰フ。コレカラ私等夫婦ノ全クノ苦難悲惨ノ生活ガ始ル。

七月二日、三日、四日ト十人壕デ

翌五日幸ヒコノ壕ニハサヤランク病院ノ一行ガ居ルノデ泰完生ニ頼ヒ妻ノ傷ヲ治療シテ貰フ「何ダコレ位ノ傷ニ負ケテハナリマセンゾ奥サン傷ハ浅イ」ト云フ、キルコノ壕ハマルデ興発ノ壕ノ様ダ勿論外部ノ人モ居ルガ主ナル人々ハ藤原重役、斜森所長、越牟田氏、兵頭氏、高野氏、石黒氏、鈴木梅川氏、氏家、神山、三好、伊藤助氏、武藤三、酒井所長、阿武課長、中野大、河

處ヘ行ッテモ、知ッタ顔バカリデ一別以来ノ挨拶ニ切リガナイ。コノ壕ハ大体四段位ニナッテ居テ、最上段カラ底ノ方ヲ見渡スト人間ガ小サク見エル。ハルカニ向フ側ーー全ク遠クト云フ文字ヲ使ヒ度イ程コノ壕ハ廣イーーヲ見渡スト断崖ノ途中ト云ハズアリトアラユル空間ニ人間ガ鈴ナリトナッテ居テ、マルデ動物園ノ小猿ノ部ノ様ダシ、地獄デ裁判ヲ待ツ亡者ノ群ノ様ニモ見エル。ーー二日無事

重役ノ一行ト一日談ズーー三日ーーコノ日ハコノ壕ニ取ッテ怖シイ日デアッタ。コノ壕モ電波探知機ニアッテカ、或ハスパイニ依ッテカ敵ニ発見サレタト見エ、シキリニ至近弾ヲ落シテ行ク。入口ニ居ル者ハ破片ヤ岩砕片ガ飛ビ来ルノデ驚イテ夫々奥ニ避難スル。

ソノ内十五時頃デアッタカ全ク偶然ニテ一発ノ爆弾ガ入口ノ屋根ノ岩盤ニブッツカリ、ソレガスベッテ壕ノ中央而モ一番廣イ人ノ多勢居ル其中ニ落チタ。セン光ガパッート目ヲ射ルト続イテダッダッダット云フ爆発音ダ。壕内ハ真暗トナル、人々ノ叫喚、子供ノ泣キ叫ブ声ガ聞エテ来ル。地獄ダ。ヤガテ明ルクナッテホルト下ハマルデ地獄絵図ダ。死体ハゴロゴロトコロガッテ居ル、首ガチギレテ居ルノガ居ル、足ガ一本コロガッテ居ル。思ハズ顔ヲソムケル。コノ日死者十七名負傷者無数ト云ハレタ、會社ノ會計ノ本田氏モコノ日亡クナッタ。夜ニナルト関係者ガ付添ヒ死体ヲ運ビ出シ假埋葬ヲスル。合掌

東京重役ハ阿武課長、越宇田、高野、石黒ノ一行丈ビ[illegible]警防團ノ一行ト共ニコノ壕ニ見極メヲ附ケ、深更

内閣調査局

ニ壊ヲ出テ「マッピー」方面ニ向ツタト翌日ニナツテカラ聞イタ。コノコトハ所長モ知ラナカツタノデアル、之ガ重役一行ト最後ノオ別レデアツタ。七月四日ハ前日ノ事件ニモ拘ラズ時々至近弾ハ来ルガ割合無事デアツタ、処ガ夜ノ十九時頃ニナツテカラ支庁ノ上船サン一行ガ見エ、敵上陸部隊ガ近附イテ来タカラ、ココヲ解散シテ貰ヒ度イ、西海岸ハ危険デアルカラ東海岸ガヨイト思フト云フ、ソウナツタ以上己ムヲ得ナイ事デアルガ、興発従業員ハ困ツテ最后ノ行動ナシタイトシキリト進言シタノデアルガ、重役一行既ニ去ツタ後デ又ミンナノ行先モ大体一箇所ニナルダロウカラソレカラ一緒ニ行動ヲ起シテモオソクナイダロウト進言ハ容レシレナカツタ。其意デ日本人トシテ最后ノ決意ヲ決シテ見苦シクラザル様一言アリ次ニ梅川氏北村警防団長ノ伏別ノ挨拶ガアリ解

散ノコトニ決ツタ、ソコデ止ムヲ得ズ夜食ヲ済マシ思ヒ思ヒ悲壮ナ思ヒヲ懐キツツ壕ヨリ出ル。愈々最后ダ私等モココデ死ヌコトニナルガ「ココデ残ツテ自決スルカ」妻ニ聞クト「歩ケル丈歩イテ生キラレル丈生キマス」ト云フ「ソウカソレデハ歩ケル丈歩イテ見ヨウ」ソコデ山本氏等ト相談ノ結果月見島方面ニ線路ヅタイニ行ク事ニ決メル。人間ノ一念ハ恐ロシイモノデ起キルニモ人手ヲ借リル妻ガソロソロト歩ク。途中電探ニ引ツカカリ、艦砲ニ見舞ワレ乍ラ「ガラベラ」月見島近クノ防風林迄辿リツク、暗シモ折モ十五夜ノ満月ダガココ迄来ルト妻モ精魅尽キタト見エテ、モウ勘弁シテ呉レト云フ、止ムヲ得ズ適当ナ場所ヲ探シテ一夜ヲ明ス

七月五日「ガラベラ」海岸防風林

夜ガ明ケテ見ルト「ガラパン」ノ中村靴屋一行ガ居ル、色々話

テスル食糧モ干麺麭ガアルダケ水ガナイ。
「サイパン」ノ山川草木皆音等ガ物ト思ヒシニ木ヲ掴ムニモ伏死行
ナリ
ココモ又音ヲ浴レルヤ山川ヨ何レトリニク音等ニ歸ルヤ
六日ハ朝カラ小銃ノ音ト機銃ノ音ガ聞エル、大レテモ別ニ氣ニ止メズニ居タト艦砲モヤッテ来ル。大鼓ヲ打ツ様ナ音、地ヲ揺ガス様ナ音。本當ニ物凄イ音ダ
午後ニナルト小銃機銃ノ音ガ益々近クニ聞エル、敵ノ戰車隊ガ直ぐ近ニ来テ居ルト云フ、ドンドン月見島方面ニ逃ゲテ来ル。私モ止ムヲ得ズ食糧等ヲナルタケ少ナクシテ身軽ニナッテ逃ゲ出ス。處デイヨイヨ月見島ノ海近ホルト「ハナデル」ニハ友軍ノ兵ガ居テ、民間人ハ一人モ「ハナデル」ニ入レヌト云フ。サレバト云ッテ此ノ辺ハ道ナク案内デ山越モ出来ズ、サゴノ

シテ居ルウチニ敵ニ圍マレテアッタノデアルトカ事休ス。
私ハ妻ト共ニ断崖ノ上ニ立チ遥カ海ノ彼方ヲ眺メ下テ最後ノ一本ノ煙草ヲ喫ンダ。
妙案ハ浮バナイ、後方ヲ見ルト既ニ捕ッテヘイヘイト頭ヲ下ゲテ、煙草ヲ貰ッテ居ルモノガアル、
捕ハレテ男ハスパイニ使ハレ、女ハ彼等ノナグサミ者ニサレルノカ、ソンナコトガ日本人トシテ容認出来ルカ、
下ハ密林ダ ココハ海岸ノ断崖ニ至ッテモ下ハスグ海デナク又一段中段ガアッテ其ノ下ガ海ダ、
月見島ガスグ下ニ見エル、ヨシ密林ノ中ニ飛ビ込メ、
死ンダ時ハ死ンダ時、生キテ居タラ又方法ガアロウ、
「飛ビ込ムンダ」妻ニ叫ブト同時ニ妻ヲ押シテ谷間

内閣調査局

ニ投ゲ込ム様ニシ、スグ其ノ後カラ私モ飛ビ込ンダノ
デアル。
不幸下ハ岩盤ダッタ、妻ハ腰ヲ打チ、私ハ捻座ヲシ
テ立ツ事ガ出来ナイ、ヤット上カラ見エナイ岩蔭ニ身ヲ
ス、アタリヲ見ルト死体ガ[illegible]ニアル、子供ノ泣
声ガ聞エルソノ内暗クナル、コウシテ一夜ヲ明ス。
七月七日—十九日（妻死ぬ）カラ（ベラ）海岸断崖中段デ
水ガナイ、二人共立ツ事ガ出来ナイ、コノ海岸ニハ何処カ出水ガ
アルラシイガソノ水モ掬ミニ行ケナイノデアル、食糧ハ幸
ニシテ此ノ崖下ニ飛ビ込ム時落シタノデ干麺麭ガ
三袋程落チテ居ルノデ大ヲ拾ッテ喰フ、
又一日暮レル幸ナコトニ私等ノ寝テ居ルスグ傍ノ断
崖ノ上ニ在ル小道ニ其処ヲ夕方ニナッテ敵

内閣調査局

ノ艦砲ガ止ムト食糧ヲ取リニ行ク連中ガ通ル私ハ
其處ノ一人ニ呼ビカケテ事情ヲ話シテ水ヲ掬ンデ
来テ貰フ、御礼ニ金ヲヤルト要ラナイト云フ、後ニ
私ガ足ガヨクナッテカラ出水ヲ掬ミニ行ッ
タガ之ガ又並大抵ノ困難サデナイ、二丈バカリノ断
崖ノ下デ、ヤット砂ト共ニ掬ミ上ゲル程シカナイ
ノデアル。私ハ此ノ時程人情ノ有難サヲ感ジ
タコトハナイ。
八日ニハ工場ノ岩代一家ニ逢フ、六日防風林ノ中デ
艦砲デ死ンダ高橋留数ノ遺髪ヲ取リニ行ク
ト云フ。知ッテ居ル人ガ近クニ居ル事ガ判ッテ頼モシク
思フ。（敵ハ）
九日ニハ再ビ海岸一帯ヲ掃蕩シ、スグ側ヲ通

内閣調査局

271

ル、ザット五百人程度ダ、私等モ道路ノスグ傍ニ寝テ
居タノデ發見サレタガ、二人共歩行出来ナイノデソ
ノママニサレル、敵ハ頗ル應揚デアル、治ル迄此處ニ
居テ治ッタラ出テ来イト云フ、コノ日ノタ方再ビ
岩代一家来リ、掃蕩ニハ免レタガ危険ダカラ脱出
スルト云フ、ソシテ自分ハ女子供ガ多イシ、捕虜ニナッ
テモ止ムヲ得ナイ、自決モ出来ナイト云フ、私モ返
ス言葉モナク出来ル丈逃ゲナサイト云フ、丁度工場
ノ人ガ一緒ダッタノデ、其ノ手ヲ借リテ妻女ヲ断
崖ノ中途ニアル窟ニ入レル、二人入ルニ丁度イイ窟デア
ル、夫迄ハ雨ガ降ッテモ木ノ下ニ濡レ乍ラ二人共
寝タマヽデアル、コウシテ十八日迄ハ此ノ窟ノ中デ外
界ト全ク絶縁サレテ過シタノデアルガ、コノ雨水ガナ

24

クナレバ出水ヲ掬ミニ行キ、出水モナク塩水ヲ飲ンデ
一日ヲ過シタコトモアリ、食糧不安ヲ覚エ痛イ足ヲ
引キヅッテ断崖ノ上ノ防凡林ニ落チテ居ルナパ
ンヲ拾ヒニ行ッタ、ソレモ大部分ハ雨デクサッテ居ル
ノデ其ノ内カラ拾ヒ分ケルノデアル、コノ間水ノ有難
サ水ノ無イ辛サヲ始メテ知ッタ。妻ニモ水モロク
ニ飲マセナイデ死ナレタノハ全ク可愛想デナラナイ
妻ハ艦砲ノ炸裂ト断崖カラ飛ビ込ンダ時ノ腰ノ
痛ミデ段々衰弱シテ痩セテ行ッタ、腰ハ打ッタ
時ニ骨ヲ折ッタカドウカ判ラナイガ、身体ヲ少シ動カス
ト痛イ／＼ト云フ、食慾モ急ニ無クナッタ、乾パンモ
ニッカ、ミッカ喰ハナイ、唯水バカリ欲シガル、其ノ水モナイ時
ニハ水筒ノ口ヲ噛マサセナイデチュウ／＼トスワセルノデ

内閣調査局
272
国立公文書館 National Archives of Japan

アル、天デモ時々雨ガアッテ、タコノ木クラ一斤、二サト
天水ガトレテ其ノ冷タイ水ヲ飲マセタ時ニハ「オーオイ
シイ〳〵」ト云ッテ本當ニ嬉シソウデアッタ。
十八日ノ午后デアル妻ハ何ヲ思ヒ出シタカ突然自分ノ
幼イ時代ノコト、私ト結婚スル迄ノコトヲ順々ト話シ出
シタ。自分ハ非常ニ果物ハ好キダガ今迄ハ思フマ
マニ食ベタコトガナイト云フコト、今度ハ是ガ非デモ内地
ニ歸ッテ果物ヲ思フ存分食ベテ死ヌコト等声モ非
常ニ音樂的ニ、一人デ二時間バカリモシャベリ續ケタ、
ソシテ一体ドウシテ内地ニ帰レルカ、戦爭ニ負ケタ場
合デモ帰レルカ等トシツコク聞タノデアル、負ケタ場
合ハ帰レナイト云フトシンミリ考ヘ込ムノデアル。
傷ツケル妻サヘイタワリ吾ハ又遠クニ遠ノ未ワルモノ哉

クラベラニ花散ル山ヲ眺メツツ吾ハ寂シク妻ヲ見守ル
今日明日モ知レヌ命ト知ラズシテ妻ハオサナ物語セリ
如何トモ命永ラヘ母ニ會ヒ果物食ヒテ死ニ度シト云ノ
妻ハ又セメテ水タル谷間ニテ故里眺ヘテ死ニ度シト云フ
今ニシテ思ヘバ妻ハコノ時死ノ危險ヲ感ジテ居タノデハ
ナイカトモ思フ、人間ハ機會ヲ失スト仲々死ネル
モノデナイ。死ニツコネタ人間程生ニ執着ヲ持ツ、其
執着リ加減ガ殆ド動物ニ近イ、如何ニシテモ生キ度
イト思ノ生ノ前ニハ何物モナイ。
十九日十カ時頃食糧漁リカラ歸ッテ見ルト妻ノ容体ガ
非常ニ悪イ、何ヲ話シカケテモオボロゲナ返事シカシナ
イ、息遣イモ荒イシ目モトロントシテ居ル、私ハ非常ニ悶
ヘタ。手ノ施シ様ガナイ、私ハ辛ヒ前夜

内閣調査局

取ッタ天水ヲ云ッガ僅ニ充分飲マセル、唯見テ居ル
丈デアル、之ガ平常ナラバ簡単ニ治療出来ル傷ナ
ノダガ、十七時竟ニ永眠ダ
泣クニモ泣クレズトハ此ノ事ダ、涙モ出ナイ、仕様ガナイ、
厚ク冥福ヲ祈リ毛布ヲ身体ニカケ、黒イ風呂敷
ヲ顔ニカケテ水ヲ茶碗ニ上ゲ合掌スル
妻ニ先立タレタ夫ハ多イダロウ、然シ此ノ様ナ悲惨ナ
死ニ直面シタ夫ハ世ニ少ナイデアロウ、
止ムヲ得ズ此ノ處カラ脱出スルコトヲ考ヘ、敵ハ既ニ[illegible]
デ此ニ這入ッテ居ル関係上、逆ニ一人ヲ取リ出来得レバ
チャチャヤ方面ニ逃レントシタ、相談相手モナシ、此ノ時程
心細サヲ感ジタ事ハナイ、断クシテ一人トボトボ敵ノ危
険ヲ避ケ山側ヲタッタックラクラベラノ食糧倉庫ニナッテ

居ル洞窟ノ入口迄来テ一息シテ居ルト、ドウモ山本
サンラシイ声ガ聞エル、山本サント呼ブト矢張リソウダ、
山本サントハチャイ壕デ別レタ切リ、ハナレバナレニナッテ
居タノデアル、田村夫人一家、田原一家ト一緒ニ居ルト
云フ、コノ食糧壕ニ食糧ヲ取リニ来タノト偶然逢
ッタノデアル
事情ヲ話シ一緒ニオラシテ貰フコトヲ依頼スルト、快
ヨク引受ケテ呉レタノデ、又引返シ聞イテ見ルト私等
夫婦ノオッタ處ノスグ近クノ洞窟ラシイ
夜ハ足許ガ危険デ洞窟ニ近寄レナイノデ断崖ノ上
ニ一夜ヲスゴシ明朝帰ルコトニナッタノデアル、
〇七月二十日ー二十八日（敵ニ収容セラルカラベラ海岸洞窟）
洞窟ニ入ッテ見ルト田村夫人田原夫人及其ノ家族ガ居

内閣調査局
274
国立公文書館 National Archives of Japan

ル一別以来ノ挨拶ヲシ妻女ノ死ヲ話スト驚ロキ悼ン
デ呉レル
ココノ生活ハ吾々ノ避難行中最モ安全無事ナ生活
デアッタ、ソノ方ニナルト、山本氏田村原サンノ坊ヤト私トニ
人デ食糧ヲトリニ行ク。ソシテ先ズ甘蔗畑ニ入リココデ
一時間バクリ、ガリ〳〵ムシャ〳〵食フ。ソシテ米ヲ背負ッテ
帰ルト翌朝迄崖ノ上ニ寝テ薄明ルクナルトソロ〳〵
洞ニ帰ル之ガ又非常ニ嬉シイモノトナッタ、一方女ノ
子ハ薪ヤラ水ヲ取リニ行ク、ココデハ穴ガ深イノデ夜
ニナルト飯ヲ炊ク其ノ飯ノ味ガ何トモ云ヘズ美味シイ、米ハ
友軍ノ第一等ノ白米ダ、オカズハ南瓜カ、サヤエンドウ
ノ味噌汁ダ、山羊ヲ殺シテ来ヨウ等ト相談スル、
コノ中デ悲惨事ハ業ニ田村サンノオカサンノ子ガ病死シ私ガ行ッテカラ
田原サンノ三ツニナル女ノ子ヲ扼殺シタコトデアル、コレハア

マリ女ノ子ガ泣クノデ附近カラ文句ガ出テ敵ニシラ
レルト云フノデ止ムヲ得ズ絞メ殺シテ了ッタノデアル、
バナデルビデハ四才以下ノ子供ヲ文句ナシニ命令デ殺サ
シタト云ク—
今度ノ戦争ノ生ミダ最モ大キナ悲惨事ノ一ツデアル—
山本サント私ハ田原サンノ其ノ子ヲ背負ッテ岩カゲニ埋
葬シ合掌シタ　コノ洞窟ノ生活モ然シ永クハ続カ
ナカッタ。
二十七日ハドコカラドウシテ嗅ギ付ケタカ敵ノ狩出ガヤ
ッテ来タノデアル。恐ラク前ニツカマッタ者ノ報告ニヨル
モノダロウ、ソシテ呼ンデ居ル声ハ會社ノ篠原君ト支
庁ノ岩佐サンダ、途端ニ私ハ妙ナ気持ニナッタ、コイツ等
ハスパイトハ行カナクトモ敵ニ懐柔サレテ手先トナッ

内閣調査局
275

ア居ル、広イ意味ノスパイダ。
隠レロ」ト云フノデ、我々一行ハ暗イ處ニ隠レル、連中
モ容易ニ暗イ處ニ入ッテ来ナイ、ソレデモ云リヤラズ
何カ民間人収容所ノ設備ノ整ッテ居ルコト、
既ニ一万人モノ収容者ガ居ルコト興若デハ上田、
馬場サン始メ大勢居テミンナノ来ルノヲ待ッテ居ル
コト等述ベ立テタ、ソノ内篠原君ガ「小村君々々」ト
呼ビ「俺ノ声ガ訳ラナイ筈ガナイダガ」ト云ッテ居ル
余程出テ行ッテ対決シヨウト思ッタガ我慢シテ居ル、
コノ日いろは楼ノ一家其他十数名コノ壕ヲ連レテ
行カレタ。
其ノ翌日、昨日ノ様ナ見ルトドウ 今日
モ来ルト云ウノデ、女子供ハソノ場合ニヨッテ
ハ収容サレルコトモイイ、ダロウト云ヒ、我々男ハドウシテモ
捕ヘラレルコトハ出来ナイダロウト山本ワント私ト
他新聞記者一人ト逃ゲルト云ッテモ遠クニ行クコトモ
却ッテ危険ナノデ近クノ暗イ洞窟ノ中ニ入ッコム。ソウシ
テ九時頃ヤッテ来タノデアル洞ノ中デハ岩佐氏ガ色
々ト女子供ヲ説得シテ居ル声ガ聞エル、ソシテ女連ハ竟
ニ収容サレルコトニ同意シタラシイ、私等ハ息ヲ殺シテ居
タガトウトウ見付カッタ、岩佐氏ガ我々ノ居ル暗イ穴ニ入ッテ
来タ、コッチラ入ッタノデアル、出ヨウツカマロウ、ソシテ収容所
ノ実状ヲ見ヨウ、場合ニ因ッテハ死ヌノハソレカラデモオソク
ハナイ。
ソレデスグニ荷物ヲ取リニ洞ニ引返シ、出ル途端足ガスベ
ッテ真逆様ニ穴ノ中ニ落ケコミ顔足ヲ打ッタ、コッテ怪我シ

タノデアル。其處ハ篠原君ガヤツテ来テカカヘテ貰ヒ荷物ヲ持
ツテ貰ヒヤツト断崖ノ上ニ上ツタノデアル、ココカラ「マダマンジヤ」ガ
ラパンヲ廻ツテ「ススッペ」ノ収容所ニ来タノデアルガ途中ノ惨憺タ
ル「マタンシヤ」「ガラパン」ノ焼野原ヲ見、或ハ海上ノ何トモ知レヌ
敵艦船ノ遊弋スル姿ヲ見ナケレバナラナカツタノデアル。
収容所ニ来テ見ルト展々知ツタ顔ガ纏々居リ、ホツ、誠ニ
マブシキ限リデアル、其ノ時新江氏ノ炊事長カラ居ル九炊事ニ行キ
味噌汁ヲ御馳走ナツタ時ノ美味サ今デモ忘レラレヌ。
私等一行ハ十二炊事ニ編入サレ之田直接食ヲ貰ツテ暫イテ頂イタノ
篠原、武藤、秋山、但野等見舞ニ来テ、私ノ苦難ノ行路ヲ語ル
コトデ一先ヅ避難行ノ一編ヲ終ル
又続ケテ収容所ノ記ヲ書キ度イト思フ
（昭和十九年十月十日）収容所ノ中ノ北側ニテ

印刷部数
委員 一五
本務官 一〇
予備 一五

戦争調査会資料第　号
（昭和二一、三、二三）

長官
庶務課長
第一室長 了
成冨事務官

本件談話講演者より寫ニ部要求あり

戦時中の交通運輸

（前運輸省鉄道総局長官 堀木鎌三氏談話速記）

戦争調査会事務局